

受験前日の注意点

いよいよ入試の日となりましたね。

明日と明後日の受験をする上での注意点をまとめておきますので、参考にして下さい。

用意する物について

- ・筆記用具の再確認（コンパスの芯が折れていないかどうか、消しゴムを入れ忘れていないかどうか）
- ・受験票の確認（別の高校の受験票と間違わないように）
- ・時計が正確に動いているかどうかを確認
- ・試験中は、携帯電話はマナーモードでもいけません。電源を切る事を覚えておいてください。
- ・シャープペンシルだけの人は、鉛筆もあったほうがいいです（シャープペンシルは力が入ると折れますし故障する可能性もあります）

学習面において

普段皆さんに言っている次の事項を再確認してください。

[国語]

- ・論説文・説明文・随筆・小説においては、問題文の大事なと思われるところにしっかりと線を引ながら（あとで見直すときに効率がよい）、問題文の内容が十分に理解できるまで読む。
- ・記述の問題は、何を聞かれているかを明確にして、それに対する答えを、まずは、短い文章で書いてみる。そしてそれに枝葉をつけて字数を調整する。また、主語と述語にねじれがないかを確認し、採点者からみて分かりやすい文章に仕上げる。
- ・選択問題は、選ぶのではなくて、異なるのをはずしていく消去法をとり、残った2つをすみずみまで精査すること。（ただしいいのを選ぶのではなく、言葉ひとつでも違っている選択肢をひとつひとつ消していく）
- ・作文問題は、完全に指示に従うこと（2段落構成なのか、字数制限はどれだけなのかなど）。そして、やはり読み手にとって分かりやすい文章を書くこと。
- ・国語は特に時間との戦いになると予想される。そのためにも、まず検査開始の合図があったら、全ての問題に目を通す事を忘れないようにしなければならない。そして目安ではあるが、大問1問につきおよそ10分から14分の持ち時間と考えておかなければならない。また第一日目の一時限目にあるのだから、緊張のせいで、なかなか文章が頭に入らないかもしれない。しかし、そう言うときは、2分間位、気持ちを落ち着かせるために、深呼吸して別のこと（塾でした勉強のことや家族のこと）に思いをめぐらせるのも効果がある。

[理科]

- ・完答問題（2つ合っではじめて1点など）が多く出題されることが予想されるので、それらの問題には、より注意深くあたること。
- ・理科の記述問題では、なにを聞かれているかをつきとめ、ひとつキーワードとなる言葉を考える。そしてそのキーワードとなる言葉をもとにして文章を組み立てていくほうがよい。肝心なのは、そのキーワードとなる言葉を自分のなかの引き出しから探し出すことだ。
- ・作図問題は、毎年そこまで難しいものは出題されていないので、ややこしいと決め付けず、与えられた情報をもとにして正確に作成すること。

[英語]

- ・英語も時間との勝負です。検査開始の合図があったら、まずは問題用紙にひと通り目を通し、問題量や出題形式を確かめておくこと。
- ・英作の問題が多くなっているが、英語は原則として減点式に採点がおこなわれる。だから、シンプルで使い慣れた英語を書くことがよい。そして、三単現のSや複数形のSや時制は十分すぎるくらい注意深く見直しをすること。又答えを前後の文脈から考えさせる問題においては、その部分にどんな言葉を入れたら意味が通る文章になるかを考え、まず日本語で書いてみる。つまり、前後の関係をしっかりととらえることが大事です。
- ・長文読解においては、限られた時間の中で焦るところだと思うが、『集中』の二文字しかない。隣の受験者の事や間に合わないかもしれないというような雑念を振り払い、集中して読み込めばちょっとしたきっかけから理解が深まるはずです。
- ・リスニング問題は、メモをとってよければ必ずメモをとりなさい。ただ聞いているだけは避けなければならない。

[社会]

- ・記述問題が多く出題される傾向にある。～と＝という言葉を使ってや、二つの図表を見て、などと指示があるので、まずは指示に従い文章を組み立ててほしい。指示に完全に従った解答であれば、若干の言葉足らずな部分であっても点数がもらえるかもしれないからです。
- ・もし今から社会の勉強をしようと思うならば公民を学習することを勧める。公民は毎年、難易度が中程度の問題で基礎的知識を問う問題が多いからです。三権分立や経済のあたりは頻出分野です。
- ・全体的な問題のつくりとして、言葉の正確な意味や、歴史であれば出来事の起こった背景などを理解しておかなければ点数がとれないものとなっている感じがします。今からやるならば、参考書でじっくり調べ学習をして深い知識を掘り起こしておくようにしよう。

[数学]

- ・大問1と2はほぼ全てミスのないように解きたいところだが、そうは言っても、緊張と時間の制限により、焦って解けないこともあるだろう。だから、前もって一問は捨てるという心構えでいたほうがよい。
- ・他の大問については、後半に簡単な問題があるかもしれないので、いかに自分が解ける問題を嗅ぎ当ててそれに集中できるかがかぎだ。ある程度考え、無理とおもったら次の問題にいく潔さも必要だ。
- ・第一印象で、私には解けない・・・と思わせるようなつくりになっている問題が毎年出題されている。だけど、「そんなの関係ない！」だ。本質を見抜いて、相手(問題)の首根っこを押さえれば、怖がるような問題は一問もないといっても過言ではない。
- ・最後に、数学は、ミスがないように精神を集中せよ。どんな難問がとけても、試験後の自己採点で、大問1の普通の計算問題でミスをしていればなんともやりきれない気持ちになるものである。

結局最後は、精神力だ。
気合で、合格を勝ち取れ。
検討を祈る。
優喜塾 塾長 中川祐樹